
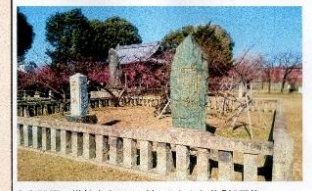


和暦	西暦	征西府(懐良親王・良成親王)	五條一族	菊池一族	備後
元弘元年	1331				
2年	1332				
3年	1333			3月11日 武時、博多に到着 武時・武重の袖ヶ浦の別れ ~ 武重を肥後に轉す 「ふるさとに今宵ばかりの命とも、知らずや人の我をまつらん」 3月12日 武時、鎮西探題に出仕 着到の差参をなじられ、侍所と口論 3月13日 少武に、首首の使として使者を立て、「探題討滅」と要請するが、少武、使者を斬る 3月13日 武時、九州探題を襲撃し、討死 その子頼隆も戦死	2~3月、千早城攻防戦
建武元年	1334	懐良親王6歳  1 菊池高校正門わきに建立した母木、熊本県指定天然記念物。	清原頼元、後醍醐帝より、懐良親王の守役を命じられ、五條姓を賜る 五條頼元、懐良親王に随い四国・九州に！	武重、肥後の守 武者所 その弟、武義は備前助に、武義は対馬守に、年次は不明だが武澄も肥前守に任じられる 5月 武重、上洛 12月 武重、新田義貞に従い、箱根竹之下の戦いで足利軍と戦う 菊池千本權の登場 ~ 小刀を青竹の先に付けた槍隊による槍ふすまをつくって進撃 2月 弟の武敏、大宰府攻撃 少武貞経を討ち取る 3月2日 多々良浜の戦いで、武敏敗れ、尊氏の大宰府入城を許す 尊氏、東上開始 5月18日 武重、福山城で防戦、京に逃げる 5月25日 湊川の戦いで、弟の武吉討死 5月27日 武重、帝の比叡山遷幸に隨行 船屋義助の下、東坂本に布陣 10月10日 帝、謀臣の甘言により京都へ戻る 武重、遷幸に随い囚禁される 11月17日 尊氏、建武式目発布し、幕府開設 帝、花園院に幽閉される 12月 帝吉野に逃れる前に、武重、囚禁を脱し、河内を経て、菊池に帰る(2月?)	正成、建武の中興、功勞一番は菊池武時と評傳
2年	1335		頼元51歳、懐良親王を奉じて忽那島に入る。嫡子、良氏・懐良親王の教育係を務める 良氏、懐良親王の教育係勤める！	2月、武重、寺尾野城で挙兵 九州、武家方に脅威を走る ~ この後、武重、恵良惟済とともに戦う 惟済は惟時と対立 この年の末、武重、病死 武士の後見役 武敏→武茂 菊池一族 ~ 惣領権不安定時代	5月 桜井の別れ
2年	1337	懐良親王、忽那島に入る		2月、武重、寺尾野城で挙兵 九州、武家方に脅威を走る ~ この後、武重、恵良惟済とともに戦う 惟済は惟時と対立 この年の末、武重、病死 武士の後見役 武敏→武茂 菊池一族 ~ 惣領権不安定時代	5月25日 湊川で討ち死に
3年	1338			武士、引退(21歳) 3月、深川城を確保 ~ 恵良惟済の支援	
4年	1339	5月1日 薩摩谷山に入る。6月7日、島津勢を新福寺城で破る「金鳥の御旗」		武光、肥後守 正月2日、武光、宇土に懐良親王を迎える	8月 隅田川の戦い
4年	1340	11月24日 谷山城出奔 正月2日、宇土津(宇土港)到着。 1月14日、菊池に入る 菊池武光によって隈部城内で松嶺能を催す。懐良、樟の木を植える。今も「樟軍木」と呼ばれ、菊池高校正門のそばに立つ。 9月14日、革研究の為、八代妙見宮を訪れる。以後、「正平御免草」「八代御免草」と呼ばれ、後世に名声を残す。 7月、溝口城の攻防、少武勢を破る 2月、針摺原の合戦で、一色父子を破る。征西府直屬部隊の根拠地づくりとして、八女郷・矢部の里の開墾に着手	頼元、良氏・良遠父子、懐良に随行して谷山案出奔 良氏、八女郷を根拠地と決め、開墾・開墾に陣頭指揮！	武光の戦い~すべて攻撃に在り ~ 九州、宮方・探題方・直冬の三分時代	正月5日、四條原の戦い
4年	1341			7月15日 武光、親王とともに筑後川を渡り、少武軍と対陣	
4年	1342			8月6日、7日 大原の合戦 武光、少武軍を破る	
4年	1343			~ 筑後川の戦い:九州第一の合戦 大将塚・千人塚・五万騎塚 そして太刀洗川の名	
4年	1344			8月12日 武光、高良山に退く 11月16日 武光、戦傷のため死去 武光の子、武政、阿蘇惟武に支援求める	
4年	1345			武政、死去 8月3日、武政の子、賀々丸(武朝)、福重原の戦いで今川了俊に敗れる	
4年	1346			6月23日 武朝追われ、良成親王の染土城陥落	
4年	1347			今川了俊との壮絶な戦い続く 今川了俊、川民・宇土を陥落させる	
4年	1348			8月、八代城陥落 良成親王・名和頭興隆伏 武朝、行方くらまず	
4年	1349			武朝、今川了俊と交渉し、代々、肥後守護職に就く	
4年	1350				
4年	1351				
4年	1352				
4年	1353				
4年	1354				
4年	1355				
4年	1356				
4年	1357				
4年	1358				
4年	1359				
4年	1360	懐良、大原合戦を助ける。犠牲者を弔い、紅梅を植える。今なお「樟軍木」として久留米市宮の陣神社に残る。 次いで、福重原の大中臣神社を訪れ、藤を植える。600年を得た今日、「樟軍木」と呼ばれ、福岡県の天然記念物に指定されている。 8月7日 博多に入る 5月、宮方、九州を統一 後村上天皇第6皇子、良成親王、九州に入る 3月 明の使節来る 7月12日、高良山征西府へ退却。8月12日 今川了俊の攻撃を受け、落城 高良山総攻撃をかけた今川了俊を武正、敗走させる。この時武正が飲んだ奥の院の水は、その後「熱ち水」とも呼ばれ、今も参詣者に愛飲される。 懐良、良成親王に征西将軍の職を譲り、引退、筑後矢部に入る 9月、針摺原の戦い 懐良、3月27日 55歳の生涯を閉じる	良氏、息子頼治を、弟良遠に預け、征西府の安寧を託す。 頼治、78歳の生涯を閉じる 頼治(良氏実子・良遠養子) 頼治、八女郷東部を征西府永遠の拠点にと決意。矢部里要塞化に取り組む。 五條家、後醍醐帝の命を受け、懐良・良成を支え続け、八女郷を終の棲家と定め、今に至る。	肥後菊池氏中心の和寇活躍 菊池氏の軍事力=経済力の基礎	正備、北朝に下る
4年	1361				
4年	1362				
4年	1363				
4年	1364				
4年	1365				
4年	1366				
4年	1367				
4年	1368				
4年	1369				
4年	1370				
4年	1371				
4年	1372				
4年	1373				
4年	1374				
4年	1375				
4年	1376				
4年	1377				
4年	1378				
4年	1379				
4年	1380				
4年	1381				
4年	1382				
4年	1383				
4年	1384				
4年	1385				
4年	1386				
4年	1387				
4年	1388				
4年	1389				
4年	1390				
4年	1391				
4年	1392				
4年	1393				
4年	1394				
4年	1395				
4年	1396				
4年	1397				
4年	1398				
4年	1399				
4年	1400				

●苦勞して四国・九州に入り、生涯戦い続け征西府を興った懐良と良成。
●五條頼元、後醍醐天皇からもらった五條の姓。そして、懐良親王からもらった土地~八女郷。天皇親政を支え、新しい台地を切り拓く源泉。
●五條家は、二人の征西宮を支え続け、九州で戦い続け、生き抜き、終の棲家として今日に至る。
●八女市、菊池市等に種殖の産物、舞等の文化遺産。今も守り継がれ、ふるさとの誇りとして根付いている。



1 大野原の犠牲者を弔い、植えられた紅梅「樟軍木」

肥後菊池氏中心の和寇活躍
菊池氏の軍事力=経済力の基礎

8月12日 武光、高良山に退く
11月16日 武光、戦傷のため死去
武光の子、武政、阿蘇惟武に支援求める

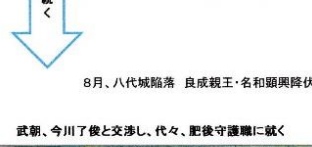
武政、死去
8月3日、武政の子、賀々丸(武朝)、福重原の戦いで今川了俊に敗れる

6月23日 武朝追われ、良成親王の染土城陥落

今川了俊との壮絶な戦い続く
今川了俊、川民・宇土を陥落させる

8月、八代城陥落 良成親王・名和頭興隆伏 武朝、行方くらまず

武朝、今川了俊と交渉し、代々、肥後守護職に就く



1 良成親王お手植えの黒木大藤。樹齢620年を誇る国指定天然記念物。